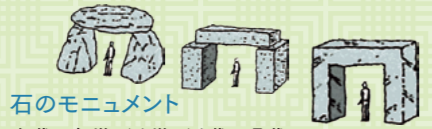


- 1 茨城廃寺跡(飛鳥時代)
- 2 常陸国衙跡(奈良・平安時代)
- 3 常陸国分寺跡(奈良時代)
- 4 常陸国分尼寺跡(奈良時代)
- 5 鹿の子遺跡(奈良・平安時代)
- 6 石岡の歴史
- 7 鹿の子遺跡パネル
- 8 石岡の遺跡分布図パネル
- 9 古代石岡の年表パネル
- 10 石岡の古代文化主旨パネル
- 11 宮平遺跡とその周辺遺跡(旧石器時代～奈良時代)
- 12 東大橋原遺跡(縄文・古墳・奈良時代)
- 13 外山遺跡(縄文・弥生・飛鳥時代)
- 14 舟塚山古墳(古墳時代)
- 15 舟塚山(古墳時代中期)
- 16 舟塚山古墳群(古墳時代前期)
- 17 二子塚遺跡(古墳時代前期)
- 18 舟塚山古墳群(古墳時代後期)
- 19 市内出土品



石のモニュメント
古代、中世、近世、近代、現代を、それぞれ表現した「時の門」です。それぞれの門をくぐり、各時代にタイムスリップして、思いを馳せてみてください。

旧佐藤家(江戸時代)
福島県南会津郡下郷町
福島県会津地方の民家を移築復元したものです。この民家は、江戸時代に肝煎(きまいり：名主)を務めた家で、南会津の貴重な文化遺産です。

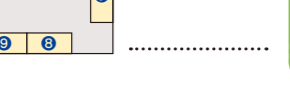
日本一の獅子頭
「石岡のおまつり」に巡行する獅子頭をスケールアップした日本一の巨大獅子頭は、常陸風土記の丘の見守り役として人気を集めています。
*台座からの高さ14m・幅10m・奥行き10m



展示研修室 有料エリア
展示室では、石岡市内で発掘された埋蔵文化財を遺跡別に展示しています。また、古代から近世にいたる石岡市のあゆみを概観できます。

●常設展 ●企画展・特別展
年間の行事予定にもとづき特定のテーマで展示を行います。

●体験学習・講習
教室・後援会などにも参加できます。



●施設の貸出し
研修室、江戸時代住居(曲屋)、江戸時代住居(直屋)を貸出し致します。
※有料。

散策しながら
ゆるゆる
歴史探訪!

園内の同行案内
歴史ボランティア

対象 有料エリア(古代家屋復元広場・鹿の子史跡公園他)・ご入場の団体(10名以上)
所要時間 標準コース…約1時間 *ご都合により40分～1時間30分程度に変更可
費用 無料
お申込み ご利用日の10日前までに常陸風土記の丘までご連絡ください。

華麗なさくらのリレー
4月は上旬のツメイヨシノ、中旬のシダレザクラ、下旬のボタンザクラと約1ヶ月に渡ってさくらを楽しめます。
※天候により開花時期が変わります。



車 常磐自動車道 千代田石岡IC～国道6号線～県道7号線経由15分
常磐自動車道 石岡小美玉スマートIC～国道355号線経由10分

電車 常磐線 石岡駅下車 関鉄グリーンバス林経由柿岡車庫行き村上下車 徒歩15分

当園は無料でご利用いただけますが、一部の有料エリアがあります。また、時期により有料となるエリアがございます。

開園時間(一部の有料エリア) 3月～10月:午前9時～午後5時 11月～2月:午前9時～午後4時

休園日 月曜日(月曜日が祝祭日の時はその翌日)
年末年始(12月28日～1月2日)

展示研修室等使用料

	午前 (9時～12時)	午後 (1時～4時30分)	1日 (午前9時～ 午後4時30分)
研修室(1)	710円	820円	1,530円
研修室(2)	710円	820円	1,530円
江戸時代住居 曲屋	1,020円	1,120円	2,140円
江戸時代住居 直屋	710円	820円	1,530円

入園料(一部の有料エリア)

こども(6歳以上16歳未満)	150円
おとな(16歳以上)	310円

石岡市常陸風土記の丘
〒315-0007 茨城県石岡市染谷1646 TEL:0299-23-3888 FAX:0299-23-7173
ホームページアドレス <http://business2.plala.or.jp/fudoki>



常陸風土記の丘

歴史の里 いしおか

ひたちふどきのおか

豊かな自然の中で
遙かな歴史の記憶が
時空を超えて
ここに集結。

太古の世界へタイムスリップ!



古代家屋復元店場

こだいおかく ぶくげんひろば



石岡市は、茨城県のほぼ中央、西に筑波山、東に霞ヶ浦を望む台地上に位置しています。有史以前から人々の生産生活の場としてひらけ、今から1万年以上も前の旧石器・縄文時代から弥生時代にいたる数多くの遺跡が発見されています。

さらに4～6世紀の古墳時代の遺跡として、茨城県内最大規模を誇る舟塚山古墳をはじめ、府中愛宕山古墳、要害山一号墳など数多くの古墳が見られ、この時代、古代豪族がこの地に割拠していたことを物語っています。

そして、7世紀のなかば常陸国が誕生すると、この石岡の地に国府が置かれ、つづいて国分寺・国分尼寺が建立されました。以後、常陸国の中心地として、又茨城県最古の都市として大いに繁栄しました。

鹿の子史跡公園

かのこしせきこうえん



この区域は、常磐自動車道路建設に伴う発掘調査で発見された遺跡の一部を復元したものです。鹿の子遺跡から発掘された建物は、住居ブロック、工房ブロック(鉄品や銅製品を作った作業場)、官衙ブロック(役所的な機能をもつところ)の三つのブロックに分かれており、この遺跡は、鉄製品を中心に製造していた特殊な構造を備えた建物跡が発見され、常陸国の官営工房跡と考えられます。この遺跡から発見された漆紙文書(漆を入れた容器のふた紙に使用された文書)は、奈良時代から平安時代初期(8世紀から9世紀)の役所や庶民の生活を知るうえで貴重なものです。

- 官衙ブロック**
- SB-掘立柱建物跡
- 工房・住居ブロック**
- SX-工房 ●SI-竪穴式住居跡
- SB-掘立柱建物跡

Map



6ちびっ子広場

見る 学ぶ 味わう さまざまな歴史を体感

歴史の里・石岡は、古くからうまい文化を築き、鹿の子遺跡をはじめ数多くの文化史跡や名所旧跡、民俗芸能が伝承されてきました。常陸風土記の丘は、そうした歴史的財産を有意義に活用し、歴史、伝承、体験学習、スポーツ、コミュニティーなどの心のふれあう余暇活用施設です。

常陸風土記の丘で見られる花暦はなごよみ

- 桜 ソメイヨシノ ▶4月上旬
シダレザクラ ▶4月中旬
ボタンザクラ ▶4月下旬
- 蓮 大賀ハス ▶7月中旬～8月中旬

※天候により開花時期が変わります。

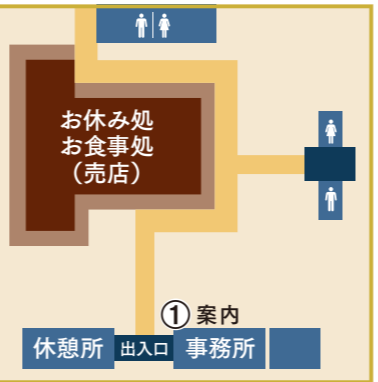


有料エリア
[入場料は裏表紙をご覧ください]

探してみよう!
棟の端に竹の小口などで文様を描く「キリメ」など、この地域ならではの技法。

お食事処
江戸時代の曲屋でお食事はいかがでしょうか。団体様のご利用も承ります。

売店
アイス・お土産など販売しております。お気軽にご利用ください。



◆◆◆ 古代家屋復元店場 ◆◆◆

縄文～弥生時代

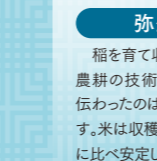
竪穴式住居

竪穴式住居は、縄文時代より何千年と伝えられてきた住居方式で、地面に竪穴を方形に掘り、四天柱を立てて骨組みをつくり茅葺きなどで被っていました。内部には、北または東などにかまどを造り暖房と炊事を兼ねて、床には藁などを敷いて寝床にしています。



縄文時代住居

約10,000年前、日本列島は少しずつ暖かくなり、地表はシイなどの照葉樹でおおわれました。さらに土器や石器などの道具が発見され、人々は食料の確保や加工がより楽になりました。この建物は、宮平遺跡から発見された1号住居跡をモデルに建築したものです。宮平遺跡は、縄文時代の最も発達した約4,000年前の集落跡です。



弥生時代住居

稲を育て収穫するという稲作農耕の技術が大陸から日本に伝わったのは約2,300年前の弥生時代のことで、米は収穫後長い間蓄積できるため、縄文時代に比べ安定した食料の確保を可能にしました。



奈良～鎌倉時代

奈良・平安時代

この民家は現存する最も古い民家である兵庫県箱木家の間取りをモデルに、建築しました。この住宅は、当時の農家と比較した時、相当大きな規模で、当時の農産層では身分の高い名主の住まいです。



鎌倉時代

この民家の頂までの高さは8.9m、軒下までの高さは3.6mです。茅や麦わらで厚く被った草葺の大屋根は夏の暑さや冬の寒さから人々を守ってくれます。屋根は茅葺で30～40年、麦わら屋根は10年くらいで葺き替えをします。



江戸時代

曲屋 [まがりや]

この民家は江戸時代後期の曲屋をモデルに建築したものです。障子や襖をはずすと大きな空間になり冠婚葬祭などの集まりにも利用されます。また、馬や牛は重要な労働力ですので、突出した馬屋と呼ばれる部分に飼われ、家族同様に大切に扱われていました。



直屋 [すこや]

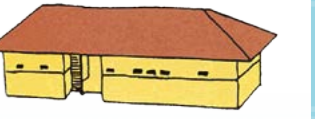
冬の寒さがきびしい東北地方には、曲屋が多く見られ、比較的暖かい関東地方には、寄せ棟の直屋が多くみられます。この民家は、江戸時代後期の直屋をモデルに建築したものです。囲炉裏には真上から「カギツルシ」をつらし、これに鉄びんや鍋をかけて煮炊きをします。炉ばたでは、食事をしたり客をもてなしたり、仕事をしたりします。



江戸時代後期

旧内田家 長屋門

長屋門は、武士や格式ある名主や豪商の屋敷入り口に設けられた門です。この長屋門の旧所有者も、江戸時代に酒屋を営んでいた豪商です。間口16間という規模で主要材にけやきや松丸太などの良材を使用しています。長屋門は、所有者の風格をしめす建造物といえます。



旧坂家住宅 曲屋

土間前面に馬家(マヤ)を接続し、平面壁のL字型をなす民家は曲屋と呼ばれています。曲屋は、主に岩手県南部地方と茨城県に多く見られ、県内の代表的な民家形式の一つです。移築復元した曲屋・旧坂家は江戸時代の名主で、茅葺屋根の軒付の「しまがけ」などに、その威風を伝えています。



官衙ブロック [8棟]

遺跡西南の平坦な部分に位置し、周囲に溝をめぐらし東側の中央に門を設けています。ブロック内の建物は掘立柱です。

1 SB-10

この建物の屋根は切妻造り割板葺です。壁は竪羽目板壁、床は土間床になっています。用途は、倉庫と考えられます。

2 SB-9

この建物の発掘調査では、遺構の柱穴から土器片、瓦、刀子片などが出土しています。この建物は、武具や鉄製品の仕上げなどの作業に使用されたと考えられます。

3 SB-28

この建物は、独立した掘立柱が床を支えた高床式倉庫です。屋根は切妻造り厚板流れ葺で、厚板の接ぎ目に目板を打っています。この建物の用途は、官衙の貴重品を収納していた倉庫と考えられます。

4 SB-5

復元した建物の中ではこの建物だけが棟持柱で棟木を支えています。屋根は切妻造り割板葺で壁は板壁、床は土間床です。建物の用途は、工場の製品の整備や仕上げなどの作業場と考えられます。



5 SB-4

この建物の屋根は切妻造り割板葺です。壁はたて板壁、床は土間床になっています。用途は倉庫と考えられます。



◆◆◆ 鹿の子史跡公園 ◆◆◆



工房・住居ブロック [4棟]

遺跡の東と北の緩い斜面に混在しています。遺構はすべて竪穴形式で、工房と住居の差は認められませんでした。そのため、炉跡、カマド跡の有無で工房と住居を区別しています。

9 2号連房式竪穴遺構

この建物の発掘調査では、遺構から炉跡1基、カマド跡4基と、漆付土器、瓦、砥石、小札、釘、などが床面全体に出土しています。建物の用途は住居と工房を併用していたと考えられます。

10 5号連房式竪穴遺構

この建物の屋根は入母屋造り茅葺で採光と換気を図っています。発掘調査では、遺構からカマド2基と、土器・鉄製品などが出土していますが、床面出土のものは少なく用途としては連房式の竪穴住居と考えられます。

11 SX-01・1号工房

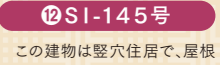
この建物の屋根は切妻造り割板葺になっています。遺構からは炉跡が7基出土している事から用途としては鍛冶工房と考えられます。

12 S1-145号

この建物は竪穴住居で、屋根は入母屋造り茅葺で、採光と換気を図っています。用途は住居と考えられます。

13 SB-6

この門は官衙ブロックの入口になる門で掘立柱、控柱付き瑞籬門(みずがきもん)の古い形と考えられます。



6 SB-16

この建物は長屋と考えられ、二戸とも屋根は寄棟造り茅葺です。壁は土塗壁、床は土間床です。用途は、武具や鉄製品などの仕上げ作業の工房と考えられます。

7 SB-20

SB-16と同じく屋根は寄棟造り茅葺で壁は土塗壁、床は土間床です。用途は、特殊な作業棟と考えられます。

8 SB-11

この建物の屋根は、寄棟造り茅葺です。壁は茅壁、床は土間床です。発掘調査では、遺構から土器・瓦片などが出土していますが、位置や規模からみて建物の用途は官衙ブロックの管理棟と考えられます。

